

「SDGsな世界、それはわたしたちの未来」

喜多方市立松山小学校 六年 猪俣 心結

「SDGsは本当に達成可能なのだろうか。」

これがわたしの最初の感想です。SDGsとは、日本語に訳すと「持続可能な開発目標」です。二〇一五年、国際連合で採択されたものです。それ以前は、MDGsミレニアム開発目標が設定されていて、二〇一五年までに達成すべき課題として、貧困、教育、健康など八つの目標が設定されていました。たくさん課題を残しただけでなく新たな問題も出てきました。それが環境問題や格差の拡大という問題です。SDGsでは、こうしたことを含めて、二〇三〇年までに、目標を達成させようとしているのです。みなさんは、それが可能だと思いますか。

世界の未来を変えるとされる十七の目標から、わたしが調べたことを発表します。まず、食糧問題です。わたしたちは、食べることに困ったことはありません。しかし、世界には、栄養不良で健康に育つことのできない人々が八億人以上もいるそうです。これは、世界中の人々の九人に一人だそうです。みなさんは、この現実をどう考えますか。最初は、「ご飯もちゃんと食べられないのはかわいそう。」という気持ちでしたが、わたしたち日本人は、一年間に六百四十万トンもの食べ物を捨てていることを知りました。そのことから、わたしは心のある変化に気づきました。それは、いかりの感情がわいてきたことです。食糧不足で今にも死んでしまいそうな人々の写真や映像を見るたびに、その感情は大きくなっています。日本人は、見た目は裕福だけど、心は貧しくはないだろうか。そう考えるようになりました。

次に、エネルギー問題についてです。世界で電力のない生活を送っている人は、なんと十二億人以上もいます。五人に一人は、電力を利用していません。また、料理や暖房に薪や木炭、動物のフンなどを利用している人が二十八億人もいるという事実をどう受け止めてよいか分かりません。動物のフンを調理に使うなんて考えられないからです。一方、石炭や石油、天然ガスなどの化石燃料を使って、たくさんエネルギーを使い、地球温暖化を進めているのもわたしたち日本人です。お金がかかるからといって、再生可能エネルギーを利用しない日本のやり方には賛成できません。

このように、不平等でどんどん格差が広がり、地球の未来が危ないのに、なぜ真剣に本気で立ち上がろうとしない人々がいるのか、とても疑問でなりません。わたしは、まず考えなければいけないことは、貧困をなくすということだと思います。そうすれば、食べることは、改善されると思います。命がつかねば、その先の未来がありません。一刻も早く、貧困をなくし、世界中の人々が平等で幸せな社会を築いていかなければなりません。そして、地球環境がどんどん悪化していることをしっかり受け取め、できる限り二酸化炭素を出さない、脱炭素社会を目指すべきです。

SDGsを達成させるために、わたしたちができることはたくさんあります。食べ物を残さず感謝して食べること。電気のむだ使いをなくすこと。ごみを減らすよう

サイクル活動を進めることなど、自分で考えて行動すれば、様々な角度から、SDGsは達成に向かって進んでいくのではないのでしょうか。そして、その実践の輪は、自分から家族へ、家族から地域へ、日本で、そして世界中へと広がり、幸福に満ちた世界になるよう努力すべきです。

SDGsな世界、それはわたしたち達の幸せな未来図そのものです。達成できるかどうかは、この地球上に住むわたしたち一人一人の前向きな考え方が大切です。みなさんも、自分にできる身近なことから確実に行動しましょう。さあ、今こそみんなで立ち上がりましょう。